

## 身近にいる生き物・植物の観察～自然の中いろいろな出会い ワクワクな観察

畑 幸慶（丹波市立大路小学校 6年）

### はじめに

僕は、丹波市内に住んでいる小学6年生です。  
2年生の時バードウォッチングに行って、たくさん鳥を見つけたことがきっかけで鳥の観察を始めました。僕の学校の宿題には、「マイノート」という何をしていてもいい宿題があります。そこで僕は鳥の絵を描いたり、図鑑で調べてまとめたり、それだけでなく、昆虫・植物・稲など色々な分野のものを観察するようになりました。



### 調査方法

#### ①フィールド調査

2020年から2023年の間で週末、春・夏・冬休みを利用して家の周りや僕の住んでいる地区内で調査した。

#### ②トラップ、ビオトープの作製

トラップを自作し、捕獲した生き物を観察または、ビオトープを川に作り観察した。

#### ③網で捕獲

網で捕獲した生き物をノギス、メジャーなどを使って大きさなどを調べた。

#### ④出現傾向の分析

活動範囲、寝床、餌場、遊んでいる所、団体行動、単独行動など時間を変えて観察し、地図にしてまとめた。

#### ⑤成長過程の観察

植物の発芽から収穫まで、昆虫の幼虫から成虫までを観察した。アメリカザリガニは卵→ゾエア幼生→ミシス幼生→小エビまでを観察

#### ⑥結果と考察

4年間で分かったことは、鳥は季節で種類や数が変わり、帰巢本能について、次の年も飛来してくるか、データにまとめると、本能がよく分かった。



また、昆虫は雌雄の生態で変わった特性がある。ヒメタニシ・ザリガニは偶然に赤ちゃんが生まれて、人間の親子のような子供を守る行動をすることが分かった。コオイムシは遠くまで移動して、雄の背中に卵を背負って育てる奇妙な習慣を持つ準絶滅危惧種だと知った。植物は葉脈、温度、水温、天気、害虫から、開花時期、種、収穫時期の変化を体験して知った。

何回観察しても、新しい変化・発見があることを学んだ。沢山の人の支えがあつてここまで観察することが出来た。共生のひろばで初めて発表し、色々な人と出会い、話すことで、「ヤマムコの求愛の後、観察しなかったの?」「葉脈のここをスタンプ出来ていいね」「すごい時間をかけているね」など観察の方法について、沢山ヒントをもらえた。アメリカザリガニ、ゴリ、カイダムシ、げんごうろう、トビゲラ、ヤマムコ、ドンコ、コオイムシ、カワニナ、ヒメタニシ、イソヒヨドリ、カワウ、カワセミ、カモ、ジョウビタキ、おしかさまキノコ、キクラゲ、シダ、緑米など沢山見つけた。僕の住んでいる自然豊かな大路には様々な生き物や植物がある。これからも大路の自然の中で新しい出会いを逃さず観察記録を取り続けて行きたい。

